第4章　東栄町の特性分析（強み・弱み・外部環境の動向）

	東栄町の特性（強み）	東栄町の問題点（弱み）	外部環境の動向
人口	・移住者サイクルの発生 ・Uターン、町内転居増 ・移住ソムリエ等人をつなぐ人の存在 ・子連れ転入の増加傾向	・自然減の継続 ・自然増の約 10 倍の自然減 ・年齢構成がアンバランス ・結果としての人口減少 ・人的・財政的・物質的資源の減少	・高齢化率のさらなる上昇見込み ・新型コロナによる価値観の変容に伴う田舎志向増の見込み
福祉・医療	・従来からある人との繋がりによる支え合い ・多機能拠点施設おいでん家等の地域ごとでの実施 ・公営医療機関による一次医療の実施	・介護等のサービス事業者が少ない ・介護等のサービス事業や専門職に従事する生産年齢人口が減少傾向 ・町内に入院施設がなくなる ・高齢者のみ世帯の増加傾向	・高齢化率のさらなる上昇見込み
教育	・１学年の児童生徒数は 20 人以下の学級が多く、きめの細かい対応が可能 ・保育園から中学校までの保育・教育を連携させることで、教育の効果をいっそう高める体制がある	・小中が１校ずつしかないため、学習面等における競争力の不足 ・町内に高校、大学がなく、通学等による親の経済的負担 ・ICT 機器の活用に必要なインターネット環境の家庭間格差 ・ICT 教育を推進するための財源負担が増大	・新型コロナウイルス感染症の発生による ICT 教育の加速化 ・家庭の経済力による教育環境の格差
文化	・国の重要無形民俗文化財である花祭が町内 11 地区で保存されている ・花祭を通じ、地域の誇りと愛着が育まれている ・歴史、文化資源が数多くある	・花祭をはじめとする伝統文化の担い手、後継者の不足 ・歴史・文化資源を残していく体制整備が不十分	・歴史や文化に興味のある観光客の増加傾向 ・各地で地域資源を生かしたまちづくりが盛ん ・中高年を中心に文化活動への参加者が増加

	東栄町の特性（強み）	東栄町の問題点（弱み）	外部環境の動向
災害	・地盤が固く、大震災の安全性が比較的高いと予測されている ・地区ごとに自主防災会や防災士等、自助や共助の担い手がいる	・高齢化による災害時の自助・互助機能の低下が懸念	・各地での地震、大雨等自然災害の発生 ・社会機能を失わないための防災減災対策が加速
環境・土地利用	・豊かな自然環境がある ・乱開発が行われていない	・高齢化、後継者不在、鳥獣害、不在地主等、複数の要因によって耕作放棄地が増加傾向 ・不十分な森林管理による、河川環境、景観等への影響 ・地形特性による土砂災害、倒木の危険性	・高規格道路網整備による、土地利活用事業者の出現の可能性
活力・産業	・高規格道路網整備による首都圏へのアクセス性の向上 ・名古屋、浜松方面からの観光客の増加 ・地域資源を活用した目玉事業（ビューティーツーリズム）がある ・全国利き鮎会にて日本一の鮎としてグランプリ獲得 ・移住者による起業の増加傾向	・地場特産品開発が不十分 ・商品やサービスの情報発信力が弱い ・労働力の町外流出 ・労働力の高齢化 ・研究開発、広報、営業を行う者がいない ・インターネット速度が遅い等通信環境がぜい弱 ・家族経営等の小規模事業主が事業者の約半数を占める ・商工業や産業の後継者不在 ・担い手及び後継者不足による耕作放棄地の増加	・新型コロナウイルス感染症の発生による、観光客の激減 ・観光テーマの多様化 ・働き方や働く場の変容

	東栄町の特性（強み）	東栄町の問題点（弱み）	外部環境の動向
都市基盤	・三遠南信自動車道の見込み ・月バイパスの開通の見込み ・上記交通網の整備による新たな物流及び交流への期待	・高規格道路の開通等による町外へのアクセス性向上によるストロー効果（働く世代の流出）の懸念 ・集落点在による多くの町道などの維持負担及び公共交通網の非効率運営 ・公共施設の老朽化及び更新費用確保困難 ・情報通信網維持の財政負担	・令和９年にリニア中央新幹線の開通と飯田市付近への駅設置見込み ・仕事の場を田舎に求めるライフスタイルの多様化
地域社会	・町内で「地域課題のために自ら行動する」団体の微増 ・地元若者やＩターン者が中心となり活動する動き	・地域の役の担い手不足や伝統行事の休止等、継続や継承への影響発生	・日本全体における少子高齢化の進展 ・新型コロナウイルス感染症の影響による東京一極集中是正への期待
行財政	・計画に基づいた事業遂行による、限りある予算の有効配分の実施	・町財源のうち、交付税等依存財源の占める割合が全体の 50％を超えており、外的要因の影響を直接受けやすい ・生産年齢人口の比率が低く働く世代が少ないため、自主財源の確保が困難	・社会情勢等の要因により地方交付税をはじめ、過疎対策事業債等交付額等の変動可能性 ・新型コロナウイルス感染症の影響による日本全体の経済停滞 ・全国各地で少子高齢化が進展する中での、働き手の確保

第5章　東栄町の主要課題

1　人口減少

・人口の減少幅に比べ、世帯の減少幅は極めて少ない。
・人口構成は、高齢者が約半数を占めており、年齢構成に隔たりがある。
・高齢者のみで構成される世帯が増加傾向にある。
・自然減が今後も続く見通しである。
・人口減少により、暮らしに関わる各分野において担い手不足を引き起こしている。
・世帯の規模が小さくなったことにより自助力・互助力が低下している。

2　福祉・医療

・人口減少による担い手減少により、介護や医療等の専門職の確保が困難になっている。
・町内に入院施設がなくなる。
・利用者が少ないため、民間事業者等による介護等のサービス事業も少ない。
・今後さらに、人口減少や高齢世帯の増加が予測され、自助・互助の力の低下が見込まれる。

3　災害対策

・大きな地震等の災害が予想されている。
・世帯の規模が小さくなったことにより自助力・互助力が低下している。
・人口減少によって地域のマンパワーが不足している。
・集落が点在する地形となっている。
・管理が行き届いてない森林や土地が増加している。

4　産業の活性化

・いずれの分野においても、後継者がいないとこや、利益にならないこと等を要因とした担い手不足となっている。
・担い手不足により、農地、森林、河川の保全や整備が不十分になり、荒廃が懸念される。
・産業の縮小や、商工業者が減少することによって暮らしが不便になる。
・人口減少により消費者が減少している。
・集落には暮らしに必要な買い物等ができる場所が少ない。
・町の魅力が町内の各所に点在している。

5 基盤整備

・いずれの公共施設も更新に多額の予算が必要になる。

・使われなくなった施設等の利活用が決まっていない。

・利用目的が似ている施設が地域内に複数ある。

・人口減少により、これまで地域住民で行っていた修繕（道つくり等）の担い手が減っている。

・集落が点在しており、公共交通の効率的な運行が困難である。

・高度情報化時代に見合った設備更新が必須となっている。

・情報通信や情報戦略に関する計画がない。

6 地域づくり

・人口減少によって、地域運営や地域行事の担い手や後継者が不足している。

・高齢世帯が増えていることによって、近所同士の協力によってできていたことができなくなっている。

・地域の中でも集落が点在している。

・地域や町の将来見通しが、町全体での共有が不十分。

7 財政問題と行政運営

・財政力が極めて脆弱である。自主財源が 50%に満たず、依存型の財源構成となっている。

・経常収支比率が 90%以上となっており、慢性的に財政が硬直化している。

・公共施設の更新等に多額の予算が必要となる。

・慢性的な職員不足や年齢構成がアンバランスになっている。

第６章　東栄町のまちづくりの方向性

１　歳を重ねても自分らしく暮らす

分野を超えた連携により、住み慣れた地域で健康に暮らすことができる町

・自助・互助の力を維持、発展させるための専門職からの働きかけ

・各分野間の連携が支える「地域まるごとケア」の実現

２　子どもたちを大切に育む

将来につながる人づくりができる町

・子どもの数の少なさを活かしたきめ細かくかつ時代に即した教育

・文化や歴史等の町に伝わるものを通じた、地域の中での世代を超えた関わり

３　生命と財産を守る防災・減災

日々の暮らしも、災害時も、事前の備えによって安心安全に暮らすことができる町

・一人ひとりの日ごろの備えによる防災力の強化

・自助や共助では不十分な場合に、頼りになる公助の体制

４　将来につながる環境の保全と創造

自然環境も、生活環境も、みんなで将来に向けて繋げていくことができる町

・一人ひとりの暮らしの中での環境保全意識の共有と実践

・産業を通じた農地、森林、河川等の環境整備による町土の保全

５　地域産業の活性化と地域魅力の創造・発信

地域の魅力をつなげ、人の流れを活かして稼ぐことができる町

・暮らしに必要な産業の維持

・地域資源を活用した事業者同士の連携による地域経済循環の拡大

６　暮らしに必要な基盤整備

暮らしに必要な基盤整備によって町外ともつながりを保つことができる町

・暮らしに必要な時代に即した基盤整備

７　将来につなげるための協働

適切な情報提供と共有により、みんなで町の将来に向けて判断ができる町

・地域や町に関する情報共有

・まちづくり基本条例の理念に沿ったまちづくりへの参加